DAIKO GROUP

DAIKO INDUSTRIAL

GROWTH and HARMONY

大幸グループ
2015
CSR報告書

発展と調和を、人と地球のために

大幸グループのビジョン

大幸グループの事業拠点・プラントは、大阪湾岸に位置する大阪市住之江区の南港地区、堺市の臨海堺港地区に展開しています。事業運営の要である大幸工業株式会社・本社と、車輌センター、建設現場、各プラントが緊密に連携し合い、環境型社会の形成に尽力しています。　再生土「ポリアース」の生産・供給のほか、ダンプに替わる海上輸送によって処理土を運搬し二酸化炭素排出量を削減するなど、循環型社会の構築に貢献。　また、地域・行政・多様な企業・従業員といったステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに重きを置き、融和・共栄に向けて邁進しています。

土を変える。

大幸グループは90年代初頭から、建設汚泥をリサイクルした「ポリナイト」、流動化処理土「ポリソイル」などの製品及びシステムを開発し、循環型社会づくりに貢献してきました。

環境を創造する。

リサイクル事業における豊富な経験とノウハウを生かし、津波対策などに用いられる盛り土用再生土「ポリアース」によって環境保全及び安心・安全な社会環境づくりに寄与しています。

地域社会と融合する。

地域に愛され、地域と共に歩む事業グループとして、道路清掃美化活動への参加、再生土を利用した寄せ植え教室、地元中学の職場体験学習受け入れなど多様な活動に取り組んでいます。

Top Message

大幸グループは、真の「循環型社会」を実現することで社会と地球に貢献する企業グループを目指します。

大幸工業株式会社　代表取締役
大阪ベントナイト事業協同組合　代表理事
浜野　廣美

法令に基づいた適正処理で高い評価を受ける

アジア初の開催となる日本万国博覧会が開かれた1970（昭和 45）年、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）」が制定されました。そして、大幸グループの中核会社である大幸工業株式会社も、この年に設立されました。大幸グループは、環境施策の一大法令である「廃棄物処理法」のもと、産業廃棄物の収集・運搬と中間処理、建設汚泥のリサイクル事業など通して、地球環境の保全と汚染予防に取り組んできました。

「廃棄物処理法」の目的は、経済の高度成長に伴って大量に発生し続ける廃棄物を抑制し、適正に処理することによって、私たちの生活環境を守ることにあります。より適切な処理の推進のために、同法は何度も改正されてきました。大きなものでは、特別管理産業廃棄物を対象とした「マニフェスト制度」の導入、通常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした優良な産廃処理業者を対象にした「優良産廃処理業者の認定」制度などがあります。

大幸グループは、業界に先駆けて「マニフェスト制度」を導入し、現在はさらに進んだ「電子マニフェスト」の 100％達成にも取り組んでいます。処理業者の優良化を進める制度では、大幸工業は 2005（平成 17）年に「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る認定制度」の評価基準適合の全国第 1 号となる認可を岡山県倉敷市から受けました。2010（平成 22）年度の廃棄物処理法改正に伴う「優良産廃処理業者の認定」でも、大幸工業及び、大阪ベントナイト事業協同組合は、事業を行う各都道府県・政令市より「優良産廃処理業者の認定」を受けています。

循環型社会への取り組み

「廃棄物処理法」とともに、私たちの業界にとって大きな節目となったのは、2000（平成 12）年に制定された「循環型社会形成推進基本法」です。日本が循環型社会を推進する基本的な枠組みとなる法律で、膨大に発生する廃棄物をリサイクルし、資源として活用することを目的にしています。

企業理念

私達は「地球を大切に」という
合い言葉のもとに
地球環境時代にふさわしい
企業をめざしています。
リサイクル技術の開発など、
産業廃棄物を
地球にやさしく還す方法を
常に追い求め、
この大切な地球環境を
すばらしい状態で未来に残したいと
心から願う人間の集まりです。

大幸グループでは、その法律が制定される 10 年前の 1990 年代の初頭から「近い将来、リサイクルが求められる時代が必ず来る、その基盤となる施設を造ろう」と、1993（平成 5）年に建設汚泥処理施設「泉第 2 プラント」、その 3 年後には建設汚泥のリサイクル施設である「泉第 3 プラント」を建設しました。そして、建設汚泥をリサイクル処理し再生した画期的なリサイクル製品「ポリナイト」を発売しました。このポリナイトにより、大幸グループは「第 1 回ウエステック大賞」「第 7 回地球環境大賞」など、環境に貢献した企業を顕彰する数々の賞を受賞するという栄誉を得ました。

以降、流動化処理土「ポリソイル」や盛り土用途に使われる「ポリアース」など、時代のニーズに合ったリサイクル製品を誕生させ、その優れた品質の製品群と環境にやさしいリサイクルシステムは効率性と安全性が注目を集め、幅広く建設現場で活用されています。大幸グループは、事業を通して地球環境を守り、持続可能な循環型社会を実現していくことをめざしてきました。それは、事業活動そのものが CSR 活動であると言えます。

循環型社会形成の旗手として、社会に貢献

「廃棄物処理法」の制定から 45 年、「循環型社会形成推進基本法」の制定から 15 年を経た今でも、循環型社会の実現にはまだ大きな課題があります。特に、喫緊の問題となっているのは、建設汚泥とコンクリート塊のリサイクルの促進です。

2020 年に開催される東京オリンピックや 2027 年の開業を目指すリニア中央新幹線など、大都市圏では大規模な建設・土木工事が今後も続きます。また、地方でも頻発する大災害に備えた「国土強靭化事業」が進められています。こうした工事は、私たちの暮らしの安心・安全を支えるとともに、日本経済の成長を促進するためになくてはならないものです。大都市圏の工事では、大量の建設汚泥とコンクリート塊が発生しています。それらは、適切にリサイクルすることで、道路の路盤材や盛り土などの資材として活用できます。

例えば、当社が開発した「ポリアース」は、建設汚泥をコーン指数 400kn/㎡（ダンプカーが走れる強度）以上の硬い再生土にリサイクルしたもので、そのまま埋め立てや盛り土に使える認可を受けており、津波対策の盛り土として注目されています。自治体をはじめとするお客様からは、「津波対策など工事の資材として、ぜひ使いたい」と言っていただくのですが、県の条例で廃棄物由来のものは搬入が規制されるなどで、使えないケースがあります。循環型社会と言いながら、一部しか循環していない、都道府県を跨ぐと循環が止まってしまうのが現状です。

こうした状況を打開していくには、業界が一丸となって、国に働き掛けていかなければなりません。私は、公益社団法人全国産業廃棄物連合会の理事・建設廃棄物部会長として、国会議員や国土交通省の方々に都道府県を跨ぐ大きなリサイクルの流れを提言してきました。業界が一丸となって活動してきたことで、2014 年 10 月に衆議院議員・参議院議員による「産業・資源循環議員連盟」が設立されました。これにより、政治面でも循環型社会形成の取り組みを推進する陣容が整いました。

こうした取り組みで、まず大都市圏で大量に発生する建設汚泥やコンクリート塊を、リサイクルして津波対策の工事などに活用していく仕組みづくりをめざします。将来的には、持続可能な循環型社会を構築し、日本の発展につながる、産業廃棄物業界の独立した法律（業法）や振興法などの制定をめざして、提言を続けていきます。

大幸グループは、業界におけるリサイクルのパイオニアとして、循環型社会の構築に積極的に貢献していきます。地域に密着して地域の発展に貢献することをベースに、日本の発展と地球環境の保全に貢献していきます。そして、社会になくてはならない企業グループとして、皆さまとともにより良い未来を築いていきます。

どうか一層のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

地域と一体になり、街を美しく快適に

大幸グループが中心となって取り組んでいるKTK道路美化キャンペーン（環境対策協議会主催）は、2004年（平成16年）にスタートし、その活動の輪は年々広がりを見せています。現在は大阪市港湾局、住之江区、さざんか平林協議会、平林こども会などにご参加いただき、大幸グループ、環境対策協議会（KTK）と地域が心をひとつにして、美しく快適なまちづくりを推進。この活動は、子どもたちの環境教育の場ともなっています。

参加者集合写真

路肩の清掃作業

2t トラック 4 台分のゴミ回収

第 12 回 KTK 道路清掃美化キャンペーン新聞掲載記事

Fuji Sankei Business i.　2015年10月27日(火)　西日本　17

社会を支える
CSRの取り組み

再生資源の製造で地域と共存

大幸工業

環境新聞
平成27年（2015年）11月4日（水曜日）　2295号

道路清掃美化を実施
KTK 過去最高420人が参加

週刊 循環経済新聞
The Recycling Economy Times
11月2日 No.1272
日報ビジネス株式会社

清掃キャンペーンを開催
大阪ベントナイト事業協同組合
2トラック4台分を回収

感想文を書く子どもたち

子供達の感想文

作業終了後の交流会（車輌センター）

作業終了後は車輌センターにおいて交流会を開き、有志が提供する焼きそばなどを食べながら、捨てられるゴミの多さや、ゴミに対する自分の意識などを話し合います。子どもたちは、そうした内容を感想文として描き、大幸グループに提出してくれます。

＜2015 年（平成 27 年・第 12 回）実績＞
参加人数：420 人
回収ゴミ量：2tトラック 4 台分

上：フジサンケイビジネスアイ《2015 年10月27日(火)》
下：環境新聞《2015 年 11 月 4 日（水）》
右：循環経済新聞《2015 年 11 月 2 日（月）》

特集 2　車輌センターで職業体験学習

次代を担う生徒・学生が現場業務を体験

泥水をホースで吸い上げ、積んで運ぶ吸引車の説明を受ける

職業体験学習

大幸グループでは、2014（平成 26）年から中学生の社会的・職業的自立の基盤づくりとなる職業体験学習の受け入れを行っています。対象は、大幸工業本社の近隣地域に位置する大阪市立北島中学校の生徒たち。今年度も再生土を使った泥だんご作りを体験し、車輌センターで専門車輌の学習や、ホースを使っての清掃体験に取り組みました。次代を担う生徒が、現場実習よって環境事業を理解し、社会性や勤労観を養う貴重な機会となっています。

2015（平成 27）年は、北島中学 2 年の男子 8 人と女子 6 人が参加。自分たちで机を配置するなど準備・片づけを行い、職場での整理整頓を学びました。泥だんご作り体験では、加水量によって、土の形状がカチカチからドロドロまで変化することを実体験し、土の形状により運搬車が異なることを学習。その後、車輌センターに移動し、硬めの土を運ぶ水密式ベッセル車（ダンプ車）、泥水を運ぶ超強力吸引車（清掃車）について実習しました。吸引車のホースを使って水を吸い上げる体験、ベッセル車の助手席に乗って死角を確認する体験を行い、歓声や驚きの声が上がりました。そのほか、アルコールチェッカー等による厳格な安全システムについて見学しました。

泥だんご作りを通し、含水量により土の形態が変わることを学習

粘土をこねて丸め、泥だんごを作る

手だけでなく、足も使ってこね、粘土の感触を体感

ポリバケツの水を泥水に見立て、実際にホースで吸引する

硬めの建設汚泥などを運ぶベッセル車を見学

交通安全について考えるため、ベッセル車の死角をチェック

インターンシップ

未来を担う学生・生徒に、大幸グループが取り組む豊かで安全なまちづくりと環境保全への思いを理解してもらう機会として、また実地研修を通じて環境への思いを共有し、将来的に私たちと強いパートナーシップで結ばれることを期待して、積極的にインターンシップを導入、近畿大学の学生を受け入れています。単なる就業体験に留まらず、環境・社会・地域を広く学び、大幸グループとの連帯感を育む交流の場ともなっています。

パソコン操作の職業体験

車輌センターでの実地研修

南港処理センターでの実地研修

大幸工業株式会社 車輌センター

超強力吸引車、水密式ベッセル車、その他をあわせ約 70 台の産業廃棄物収集運搬用登録車両と、営業用ハイブリッド車 12 台、24 時間対応の自家給油所を備えています。また、環境に配慮した燃費基準達成車両システム、GPS 利用の車両運営管理システム、アルコール検知システム、デジタルタコメーター、ドライブレコーダーを導入し、安全・正確・高水準な業務を推進しています。

輝く未来、緑豊かな環境のために

大幸グループでは、環境負荷の少ない廃棄物処理法を追求するだけでなく、資源循環システムの構築を目指し、リサイクル技術の開発及びリサイクルシステムの提案に取り組んでいます。

建設・解体現場で回収した汚泥やがれき類等は、それぞれ南港処理センターや堺・泉プラントに運んで適切な処理を行い、再生土「ポリアース」、流動化処理土「ポリソイル」など、高品質な製品として販売しています。

リサイクル

建設汚泥

建設汚泥
がれき類

中間処理

再生処理

流動化及び分級
破砕

製　造

再生土
（ポリアース）

流動化処理土
（ポリソイル）
再生砂
再生砕石

産業廃棄物適正処理

汚泥
廃酸
廃アルカリ

建設汚泥
（泥水）

建設汚泥
（泥土）

中間処理

中和脱水処理

固化処理

排水処理

下水道
放流

埋立
処分場

埋立
処分場

大幸グループの処理施設

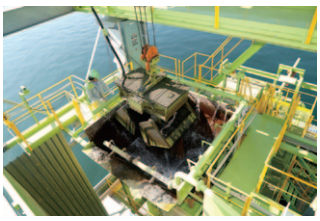
グループを挙げて、新たな地平を開く

大幸グループの事業拠点・プラントは、海上輸送に直結した湾岸、埋立地に直接再生土を打ち込める立地等、効率化と品質を追及した陣容になっています。また、各プラントをつなぐ輸送路と通信・運用の制御を徹底し、グループの総合力が発揮される体制を整備しています。

南港処理センター

建設汚泥及び、汚泥・廃酸・廃アルカリの再資源化と中間処理を行う施設。2014（平成 26）年に全面リニューアルし、新施設として稼動しました。

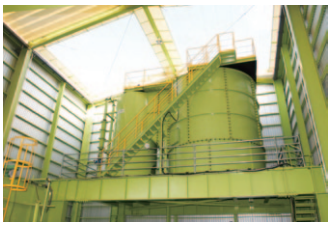
［1993（平成 5）年・地方優良事業所表彰、1995（平成 7）年・優良事業所表彰、2002（平成 14）年・ISO9001 及び ISO14001 認証取得］



堺プラント

がれき類の破砕・篩別及び建設汚泥の分級を行う中間施設。建設汚泥処理土の積替保管施設を持ち、陸上・海上輸送の中継機能も果たしています。

［2002（平成 14）年・ISO9001 及び ISO14001 認証取得、2011（平成 23）年・優良産廃処理業者認定］



泉プラント

泉第 2 プラントは、建設汚泥を固化処理する中間処理施設。泉第 3 プラントは、盛り土用途の再生土ポリアースを製造するリサイクル施設です。［2002（平成 14）年・ISO9001 及び ISO14001 認証取得］

南港東プラント

阪神高速大和川線シールド工事の発生土をリサイクル処理し、大阪市第 6 貯木場の埋め立て用土として供給する施設です。

地域に寄り添い、地域と共に歩む

環境にやさしい都市開発を支え、環境保全・災害対策に資することで、人々の暮らしを守るリサイクル事業。

地域の理解、信頼、パートナーシップなくして実現は不可能であり、長年にわたり地道で着実な地域活動に努めてきました。当地における地域活動のリーダー的存在として、今後も、関連企業・行政・地域社会が一体となった貢献活動を推進していきます。

寄せ植え教室

大幸グループが製造したエコリサイクル土の品質、優れた再資源化技術とその源となる熱意を地域の方々に理解していただき、環境への思いを共有するために、エコリサイクル土を使った寄せ植え教室を開催しています。寄せ植え実習の後は、参加者の皆さんと、大幸グループスタッフがテーブルを囲み、お茶とお菓子を楽しみながら懇親会を行います。

2011 年（平成 23 年）から、住之江区の平林福祉会館にて毎年開催し、地域の恒例イベントとして親しまれています。

懇談会の様子

第９回寄せ植え教室

第１０回寄せ植え教室

大幸工業株式会社スペシャルチャレンジ

THE RISE 256

大幸工業の名を冠した市民参加型スポーツイベントとして、大阪市住之江区の区政 40 周年を機にスタート。高さ256mの大阪府咲洲庁舎で、非常階段のコースを登り、52階のゴールを目指す垂直マラソン ＆ ウォーキング大会です。2 回目の今年は小・中・高校生の部が新設され、それぞれ自分のペースに合わせて 1176 段先のゴールを目指しました。コスプレの参加も可能とあって会場の雰囲気は華やか。表彰式では、住之江区長および、大幸グループ代表・浜野廣美が選手らを迎え、その健闘を称えました。

受彰者の方々

授彰式

開会式

盆踊り大会

大幸グループの本拠地、住之江区の平林南町会主催で毎年開催される夏の盆踊り大会に、グループの社員とその家族が積極的に参加し、大会を盛り上げています。また、盆踊りに欠かせない夜店の運営にも協力。かき氷や焼き鳥、焼きそば屋台のスタッフとして活躍し、地域と一体になって楽しく過ごしています。

屋台お手伝いの様子

地域社会への提案

「地域環境を守る製造業」を目指し、研究・開発、啓発活動に邁進

大幸グループは、廃棄物の収集運搬・中間処理業から、「地球環境を守る製造業」を目指した廃棄物の収集運搬・再生処理業への転換を進めています。このためには、未来に向けた研究・開発と人材育成が大切になってきます。

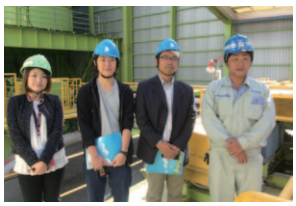
大幸グループの主要施設は、大阪市住之江区に位置しており、1994 年に「大阪ベントナイト事業協同組合環境対策協議会（KTK）」を立ち上げて、地域住民・関係者の皆さまに参加していただき、温暖化防止対策や、健全で持続可能な循環型社会構築の課題を共有するために、講習会などを開いてきました。そして、2003 年から「KTK 道路清掃美化キャンペーン」を開催し、地域の「土と水」を浄化する清掃美化啓発活動を行ってきました。

また、大阪湾における「土と水」の環境再生と、住之江区の活性化、災害に強い「安全・安心なまちづくり」に寄与できる企業を目指して、大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア（CIFER・コア）に加入し、新たな取り組みを始めました。

今後も、大和川や木津川、住之江区内の貯木場の浄化や、災害に強いまちづくりを目指した土地造成の提案などを積極的に実施していきます。

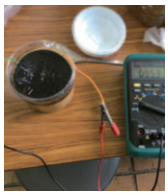
国立研究開発法人 国立環境研究所 肴倉宏史博士による「安全・安心な街造り」の講演

大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会 総会



国立大学法人　京都大学　勝見武教授、乾准教授らとの「流動化処理土」などの再生利用の共同研究

大阪ベントナイト事業協同組合　環境対策協議会 道路清掃美化キャンペーン



大阪産業大学　藤長 愛一郎教授らとの「建設汚泥を用いた微生物燃料電池」による浄化の共同研究

大阪市住之江区民とともに 50 周年を迎えた大幸グループ（大幸工業　大阪ベントナイト事業協同組合）

人を育て、伸ばす豊かな環境づくり

従業員一人ひとりが、職務へのモチベーションを高め、達成感を感じ、成長できる職場環境づくりに向けて、表彰制度や教育制度を設けています。また、グループ・関連企業の親睦会や定期刊行物を通して組織力の強化、価値観の共有を図ると共に、固定観念にとらわれない公平・公正な評価による人材登用を実践しています。

■社員表彰

永年勤続表彰

大幸グループでは、社会と環境に貢献できる、働きがいのある職場づくりを目指し、優良従業員表彰および、永年勤続表彰の制度を設置。親睦会より定年退職者へ感謝の気持ちをこめて記念品を贈呈しました。

KTK 優良従業者表彰を受賞

2015 年 4 月14 日、KTK(大阪ベントナイト事業協同組合環境対策協議会)通常総会において、2015 年は優良従業員 1 名、十年勤続 6 名が表彰されました。大阪ベントナイト事業協同組合南港処理センター・美馬　健祐が優良従業者として表彰されました。

公社) 全国産業廃棄物連合会　優良従業員表彰を受賞

2015 年 6 月 12 日、東京・明治記念館で開かれた公益社会法人全国産業廃棄物連合会定時総会において、大幸工業株式会社運輸部・榎木 道雄が優良従業者として表彰されました。表彰は、事業所に永年勤続し、成績優秀で他の模範となる従業員といった基準のもとで行われます。

人材育成と社内環境整備

地球環境とステークホルダーの皆様にとって「よいことは、積極的に行う」という姿勢で、さまざまな取り組みを進めています。

■従業員研修

大幸グループは、KTK（大阪ベントナイト事業協同組合環境対策協議会）の活動を通し、傘下の関連企業だけでなく、環境事業に参加・賛同する幅広い業種の企業と連携し、情報交換と相互扶助を図っています。この大同団結により、業界全体のイメージアップと資質の向上を企図し、異業種を横断的に網羅した勉強会や相互交流会によって、環境に関する共通課題の解決、個人のモチベーション向上を目指します。

また、大幸グループ独自の取り組みとして、役職者による大幸未来育成会をはじめとするセクションごとの研修や、各プラントを横断する教育活動を展開しています。こうした活動により、一人ひとりの意欲を引き出し、能力開発と成功のチャンスを提供しています。

一方、安全確実な運行業務を目指して、安全講習会のほか、廃棄物の漏洩に対する緊急事態対応訓練を定期的に実施し、危険予知・予防対策に努めています。また、地球環境の保全に向けエコドライブ講習会を定期開催。中部から九州に至る広域での収集運搬を安全かつ円滑に行うため、冬期の積雪対策としてタイヤチェーンの装着訓練にも取り組んでいます。

本社研修

プラント研修

運輸・ドライバー研修

ドライバー研修

■定年後の再雇用・嘱託就業

大幸グループを支えてきた人材の能力と経験は私たちの宝です。行政の指導方針としても平成２５年４月より「改正高年齢者雇用安定法」が施行され、年金支給開始年齢の引き上げに伴った雇用環境の見直しが企業に求められています。大幸グループはこうした世情が一般化する以前から、定年後にも事業を支える大きな柱として再雇用制度を考え、社員それぞれの希望も考慮しながら再契約の道を作ってきました。基本的には定年後の単年契約を６５歳まで重ねる方式を採用し、能力、役割に応じた活躍を期待し、後進への鏡としてのマンパワーを職場に広げていただく基盤づくりに努めています。

■関連企業親睦会

大幸グループおよび、関連企業の交流・懇親を目的に、2015 年 9 月 18 日夕刻、車輌センターにて合同親睦会を開催、大幸グループ・協力会の計約 100 人が一堂に会し、炭火焼き肉とビンゴ大会を楽しみました。距離の離れた事業所、企業、組織のスタッフが循環型社会の形成、環境保護という目的のもと意思統一を図ると共に、直接顔を合わせて「輪」を築く、有意義な機会となりました。

■育児介護休暇

少子化時代の女性活用政策が注目されるなか、大幸グループは社員のライフサイクル、生活スタイルに最も適し、仕事と家庭生活の両立を容易にする育児・介護休暇制度を、その必要に応じて男女ともに提供し、社員が安心して就業できる環境と、仕事へのモチベーションの維持を図っています。特に配慮していることは、この制度をこだわりなく取得できる社内の理解と支援にあります。新生児の育児、お年寄りの介護、病にある家族への看護等、そのための所定時間外労働の免除、深夜業の制限、時間短縮その他について個別に相談し、正当な事由に基づくものに対してのサポート体制を築いています。

■健康診断と人間ドック

働き盛りの世代のみならず、近年では若い世代でもさまざまな疾病が現代生活の弊害として指摘されています。企業を支える人材の健康トラブルは大きな損失となりうるもので、これに対してはできる限りの備えが必要です。大幸グループでは、従業員、組合員の潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療へのルートとして、健康診断（ 特定健診・特定保健指導 ）だけではなく、人間ドックの利用推進にも力を注いできました。しっかりとした検診を受けようとすると、ともすれば高額な負担がかかる人間ドックですが、その負担の大部分を企業として補助し、気軽に利用できる体制を整えています。このシステムは特に社員、そしてご家族に人気が高い福利厚生の一つとなっています。

■体力づくり教室

予防医学の必要性が社会的に高まるなか、健康維持と体力づくりを目標とするエクササイズ教室を週一度、夕刻に大幸工業本社で開いています。極真空手をアレンジしたもので、プラント従業員が健康管理のために自ら教室開催を企画、本社を会場とすることで徐々に参加者が増えつつあります。大幸グループは、スタッフが最大限に能力を発揮できる健康的な環境を構築するため、今後も健康づくりの支援活動を続けていきます。

■防災訓練

内閣府からの南海トラフ地震・津波による被害想定の公表を受け、2013 年からグループを挙げて、津波避難を軸とした防災訓練に取り組んでいます。不測の事態に動揺することなく適切・迅速に行動できるよう、今後も実践的な訓練を毎年繰り返し、防災体制の維持・向上を目指していきます。

■大幸グループ通信

大幸グループ全体の情報共有を目的とした情報誌を、隔月サイクルで刊行しています。掲載内容は、私たちの関わる環境事業の現況と今後の方向性、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、関連企業の最新情報などについて。すべてのスタッフと、その家族に向けて、環境事業内容と目指すベクトルについて広報を行い、グループ・関連企業の一体化と環境啓発に努めています。

揺るぎない環境理念に根ざして

2015 年 (平成 27 年) 度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

年度方針・環境方針

社長方針

「協調」

協調絵性のある社員を目指せ、共通の目標に向かい任務の遂行、心温まる職場環境を創ろう。

環境方針

私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適性処分および、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

ISOスローガン

「考えよう 一人ひとりができるエコ」

1 安全・安定操業の確保

① 教育・訓練を充実し、個々のレベルアップを図る社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。

② 事故・トラブルの原因を徹底究明し再発を防止する事故事例検討会を実施し、類似事故の再発を防止する。

2 組織の強化と業績改善の推進

①. 法令順守と情報公開

・環境に関する法律、協定及び地域との協議ルールの順守を徹底する。

・ホームページ等での情報公開を推進し、企業イメージのアップを図る。

・電子マニフェスト化の推進等により、法令順守意識の高揚を図る。

②. 業績改善の推進

業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。

ISO 活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。

新規リサイクル事業の実現と効率的な操業を推進する。

3 「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進する。

① 車輌・重機の燃料効率の向上 ― 削減目標：前年比３％CUT

エコドライブの実践 ― 急発進・急加速防止・アイドリングストップ

「もったいない運動」の推進 ― 紙使用削減・電力使用削減

② 地域との共存共栄の推進

・道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。

・本社周辺に設けたエコリサイクル花壇の維持管理に努め、地域の環境保全を図る。

4 循環型社会の構築に寄与する製品の開発・改良及び販売

・流動化処理土「ポリソイル」をはじめとする資源循環型製品の改良、拡販に努め ると同時に、新製品の開発を推進し、循環型社会の形成を図る。

5 顧客サービスの充実

顧客ニーズに対応した処理システムの開発

3R、コスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

環境マネジメント・認証取得

地球環境の明日を考え、循環型社会の実現を目指す大幸グループは、公的な審査基準による環境及び品質の優良認証を得ると共に、自治体から事業内容と製品品質についての表彰を受けています。
また、社内でも独自の環境目標を組み、厳格な品質管理体制と共に環境マネジメントに力を注いでいます。

ISO 取得状況

大幸グループは、総括的な企業風土、社員個人の社会的貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けて ISO9001、ISO14001 の認証を取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

内部環境監査

ISO9001、ISO14001 取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムの PDCA サイクルに基づき、内部監査を実施。環境実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

環境教育

各プラントにおける緊急時の対応訓練、工場法規制研修等、それぞれのサイトの特性と業務内容に合わせて多様な環境教育を展開しています。また、サイト内にとどまらず、外部で開かれている研修会への参加等、環境教育の拡大を積極的に推し進めています。

外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関のオリオン・レジストラー・ジャパンによる監査を受けています。例年、審査結果をもとに指摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。

第三者意見

新たな仕組み造りの提言に今後も期待します。

大幸グループ 2015CSR 報告書は、写真や絵を効果的に使うなどグループのビジョンが理解しやすいように書かれています。特に、大幸グループの事業拠点を示した図は、ビジョンを明確に示し、環境の変化に対してぶれない企業姿勢が強く感じとれます。

そして、地域貢献では、2003 年から開始された「KTK 道路清掃美化キャンペーン」や「寄せ植え教室」や「インターシップ」の受け入れなど、地域に根ざし、社会の明日に果たす役割を十分果たしておられます。

特に、2014 年から開始した、1,176 段を駆け上がるタイムレース日本一「THE RISE256」に協賛されこと、そして、大阪市立新北島中学校から十四名の生徒による「職場体験学習」を受け入れたことなど、これらを継続されていることは、住之江区に住む大幸グループの特性を生かした社会活動であり大変興味深く思います。

今年から、大幸グループのカモメをキャラクター化したゆるキャラを製作され、社員自らキャラクターの中に入り、地域の方と接触される光景は、浜野 廣美氏の「社会と地球に貢献する企業グループを目指す」宣言の現れと強く感じることができます。

最後に、大幸グループの環境理念に従い、2015 年の目標と実績、環境データの開示、リサイクル活動成果がわかりやすく示されています。CSR 報告書を情報の開示としてだけでなく、大幸グループの更なる成長・発展の新しい手段として地域の住民の方と新たな共通の価値の創造に取り組まれていくことを期待したいと思います。

京都大学大学院
地球環境学堂 教授
勝見 武

環境負荷に対する活動の目標と実績

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとでの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。

1014年目標とその成果

部門	目　的	目標値	具体的実施方法	評価
南港処理センター	電力使用量削減	前年同月比3％削減	不使用機器の停止	☆☆☆
	用水使用量削減	前年同月比4％削減	不使用機器の停止	☆☆☆
	重機燃料使用量削減	前年同月比3％削減	アイドリングストップ	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	法規制の順守	排出基準値クリアー	pH 監視強化	☆☆☆
	法規制の順守	受入基準値クリアー	定期分析による監視	☆☆☆
泉プラント	電力使用量削減	前年同月比4％削減	不使用機器の停止	☆☆☆
	重機燃料使用量削減	前年同月比３％削減	アイドリングストップ	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	法規制の順守	搬入基準値クリアー	品質検査の実施	☆☆☆
堺プラント	電力使用量削減	前年同月比３％削減	不使用機器の停止	☆☆
	重機燃料使用量削減	前年同月比３％削減	アイドリングストップ	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
南港東プラント	電力使用量削減	冷房　27℃ 暖房　21℃	室内温度の適正管理	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	安全安定操業の確保	無事故無災害	作業指示書による 順守事項の徹底	☆☆☆
本社	電力使用量削減	前年同月比2％削減	冷暖房温度設定管理	☆☆
	省資源	前年同月比4％削減	コピー用紙使用量の削減	☆☆☆
運輸部	電力使用量の削減	前年同月比３％削減	冷暖房温度設定管理	☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	顧客満足度の向上	着時間遅延ゼロ	現着時間報告	☆☆☆
	安全安定操業の確保	無事故無災害	作業指示書による 順守事項の徹底	☆☆☆
	重機燃料使用量削減	前年同月比2％削減	アイドリングストップ	☆☆

☆目標未達成　☆☆目標ほぼ達成　☆☆☆目標達成

環境データー

泉プラント

中間処理場排出汚泥の化学測定結果

項　目	単　位	産業廃棄物法基準	最終処分場受入基準	測定値 最大値	測定値 最低値	測定値 頻　度
カドミウム	mg／ℓ	0.3	0.1	<0.01	<0.01	1回／月
鉛	mg／ℓ	0.3	0.3	0.18	<0.01	1回／月
6価クロム	mg／ℓ	1.5	0.5	0.22	<0.05	1回／月
砒素	mg／ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回／月
セレン	mg／ℓ	0.3	1	<0.01	<0.01	1回／月
熱灼減量	%	ー	15	12.2	2.9	1回／月

南港処理センター

項　目	単　位	産業廃棄物法基準	最終処分場受入基準	測定値 最大値	測定値 最低値	測定値 頻　度
カドミウム	mg／ℓ	0.3	0.1	0.02	<0.01	1回／月
鉛	mg／ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回／月
6価クロム	mg／ℓ	1.5	0.5	0.19	<0.05	1回／月
砒素	mg／ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回／月
セレン	mg／ℓ	0.3	1	<0.01	<0.01	1回／月
熱灼減量	%	ー	15	13.2	1.8	1回／月

リサイクル活動の実績

大幸工業株式会社はリサイクル募金推進連絡会による、ペットボトルとボトルキャップのリサイクル活動に参加しています。この活動は環境保全、資源の再利用、地域福祉への貢献にとどまらず、世界で医療の行き届かない子供たちにワクチンを贈る資金作りにもなっています。

■平成 26 年度リサイクル募金の活動実績

大幸工業(株)	ペットボトル	キャップ
27 年 4 月 14 日	10kg	6kg
〃　7 月 15 日	12kg	0kg
〃 10 月 14 日	17kg	0kg

大阪ベントナイト事業㈱	ペットボトル	キャップ
27 年　4 月 14 日	9kg	5kg
〃　7 月 15 日	0kg	14.2kg
〃 10 月 14 日	0kg	12.0kg

リサイクルペットボトル

リサイクルキャップ

■使用済み切手の回収

使用済み切手も、キロ単位の重さになると換金され寄付に用いることができます。回収された使用済み切手は、ボランティア組織を通して切手商、そして切手コレクターの手に渡ります。つまり、新たな価値を生み、換金により困った人々の役に立ちます。私たちは、資源の新たな可能性と価値の発見に取り組む企業として、身近なすべてのものを注意深く見つめています。

リサイクル切手

■ダンボールの回収

事務用品や衛生用品の梱包材など、事業活動で発生するダンボールも環境資源と考え、2014 年からリサイクル活動をスタートしました。同年度（4 月～3 月）は、2,278kg のダンボールを再資源化。備品・消耗品の荷ほどき後、ダンボールを所定の位置に運ぶという「ひと手間」の慣習化により、従業員の環境意識が高まりを見せています。

企業活動を通し、安心・安心な社会に

産業廃棄物の再資源化及び適正処理。事業そのものが CSR 活動といえる大幸グループでは、安全衛生、危機管理、セキュリティといった多分野において積極的にコンプライアンス活動を展開しています。

■労働安全衛生活動

大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝の朝礼と、報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に自己責任の認識を徹底させることに主眼を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それに全てを依存することではなく、環境と状況に対応する、体で判断するということが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に弊社の場合、プラント、各部署によって多様な業務の事情、状況があります。それぞれのプラントだけでも扱い品、処理薬その他で対応すべき課題は違います。

具体的には各プラントの処理業務に応じたそれぞれに求められる最適で的確な、そして即時的な危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等の完全支給による着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策としての水分・塩分補給等の身構えをはじめ、仕事に応じた管理体制をそれぞれが目的意識を持って創造的にプラスしていることです。

■リスクアセスメント

業務には絶えずさまざまな危険要素が付きまといます。その危険度に応じた評価を判定し、危険要素に対応する対策を優先順位で意識確認しています。営業活動の段階でも、危険処理の契約時に危険物の存在と状況を説明、確認し、受け入れ場所、ドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応や事故の場合での各責任者の対処マニュアルについてはその事情を熟知した現場が主体的に作成することになっています。

■コンプライアンス教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけに囚われることにより厳密な規制のみを掛けられると企業としての発展性は損なわれかねないでしょう。法の精神は守るべきとして、単純な社内制度化でなく、企業、組織が何をビジョンに機能しているのかを社内全体が理解し認識して、正当な、そして未来につながる企業へと育てていかなければなりません。

時として企業活動を損なう反社会勢力に対する対応には、専従の担当者を配置して万全の対処の態勢を取っています。また、新聞等の事件事例をもとに具体例から衆知徹底する形で、社員への教育・啓蒙活動を頻繁に実施し認識の徹底を図っています。特に車輌運行では、ドライバーとしての責任と自覚を徹底して、弊社の名前を刻んだ車輌を運行しているということの重要性、状況に応じた切な対応を説明しています。

■情報セキュリティ

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関して企業としても自己防衛の的確な形を作っていくことが必要となっています。個人情報保護法や法令による規制はあるものの、やはり社員全員が自覚と認識をもって大切な情報を保護しなければなりません。弊社は情報の管理をブロック単位で行い、その責任体系を明確にするとともに、同時に必要な情報の共有という問題に取り組んでいます。

大幸グループ事業概要

大幸工業株式会社

本　　社
〒559-0025　大阪市住之江区平林南2−8−37
TEL 06-6686-0001
FAX 06-6686-0002

東京支店
〒105-0003　東京都港区西新橋1−18−6
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370

建設汚泥の収集運搬　廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負　流動化処理土の販売
一般貨物自動車運送事業　特定旅客自動車運送事業
造園工事業　土木、建築工事の施工及び請負
各種清掃業　造園工事業

大阪ベントナイト事業協同組合

〒559-0025　大阪市住之江区平林南2−8−37
TEL 06-6686-0003
FAX 06-6686-0004

汚泥、廃酸、廃アルカリの中間処理、流動化処理
組合員の取扱う汚泥の共同処理
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

堺大幸工業有限会社

〒590-0063　大阪府堺市堺区中安井町3−4−10
TEL 072-238-3059

建設汚泥の収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

大幸工業泉佐野

〒598-0001　大阪府泉佐野市上瓦屋661番地1
第2リヒトビル302
TEL 072-429-9147
FAX 072-429-9146

建設汚泥の収集運搬　廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負　一般貨物自動車運送事業
ビルメンテナンス業

有限会社大幸リース

〒559-0025　大阪市住之江区平林南2−8−37
TEL 06-6686-0005

機械のリース
運搬車両のリース

北部大幸工業有限会社

〒541-0043　大阪市中央区高麗橋4−5−13
TEL 06-6226-0882

建設汚泥の収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

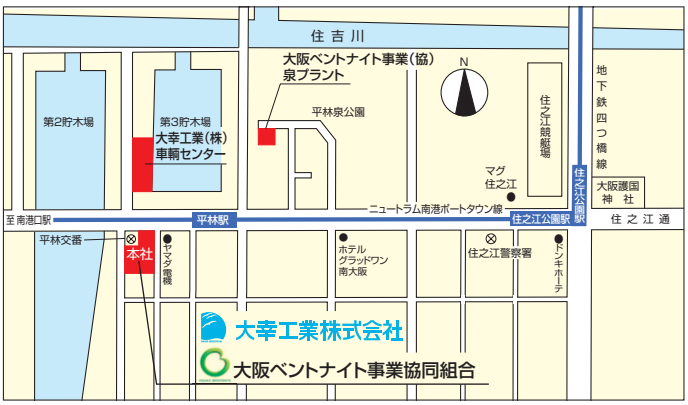
大幸工業株式会社

本　　社　〒559-0025　大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001　FAX 06-6686-0002
東京支店　〒105-0003　東京都港区西新橋1丁目18番6号
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370　FAX 03-5501-1371

大阪ベントナイト事業協同組合

本　　社　〒559-0025　大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0003　FAX 06-6686-0004

■携帯電話からのアクセス
e-mail:sea-mew@daiko-group.com
右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、
直接サイトにアクセスできます。
http://www.daiko-group.com/



【お問い合わせ先】　大幸グループ　CSR 事務局
〒559-0025
大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

この印刷物は環境に配慮した
「ベジタブルインキ」で
印刷されています。

弊社は暴力団等反社会的勢力との取引は一切行いません
（ホームページ掲載）

2016.01.1000